

公共図書館と連携した マルチメディアDAISY体験会の開催

アイサポート那須
松木 隆雄

アイサポート那須は、おもに高齢者や障害のある人の読み書き支援やパソコンサポートなどを行っているボランティア団体です。昨年からは黒磯図書館の協力を得て、マルチメディアDAISY図書の普及活動に取り組み始めました。一人でも多くの方々に「わいわい文庫」を知ってもらうために、今年度は、那須塩原市内の黒磯、西那須野、塩原の各図書館で体験会を実施しました。

わいわい文庫体験会

那須塩原市の図書館担当課（生涯学習課）の理解もあり、図書館が市広報への掲載、会場手配、PR、館員の全員体験と、全面的な協力を引き受けてくれました。

社会福祉協議会のボランティアセンターもポスター・チラシの製作印刷、学校への配布、社協だよりへの掲載と、側面から積極的にサポート。

音訳グループからも借用してノートパソコン4台を準備、アイサポート那須のメンバーが交替で対応しました。

[4] 平成26年10月20日発行

ボランティアセンターだより

マルチメディアDAISY体験会
～わいわい文庫をみてみよう～ レポート

アイ・サポート那須（代表松木隆雄氏）では、さまざまな障がい（視覚、聴覚、知的、学習）のある子どもにも読書を楽しんでもほしいとマルチメディアDAISYの「わいわい文庫」の普及活動を行っています。（平成26年8月5日発行社協だより第47号の「ボランティアセンターだより」のコーナーにて掲載）今回は、8月9日（土）から3日間にわたり市内にある3カ所の図書館にて開催されました「マルチメディアDAISY体験会～わいわい文庫をみてみよう～」の様子をお伝えします。

体験会を行う前は、「この体験会に少しでも来てくれればいいなあ」と不安を口にしていたアイ・サポート那須のメンバーさんたちでしたが、開催したところ予想を超える50名の参加があり、用意していた4台のパソコンが足りないうる場面もあり難しい事態となりました。楽しみに会場を待たせる障がいのあるお子さん、興味を示す発達障がい者の男性、読書好きだった認知症の父に使うことはできないかと体験する女性、教師を自薦しているという女子高生……多くの方が体験されました。

マルチメディアDAISYについて説明を聞きたい、体験してみたいと思われる方は、那須塩原市社会福祉協議会ボランティアセンターまでお問い合わせください。
問合せ：那須塩原市社会福祉協議会ボランティアセンター 電話0287-73-0073




子どもたちに読書と学習の喜びを マルチメディアDAISY体験会 ～わいわい文庫をみてみよう～

マルチメディアDAISYってなあに？

さまざまな障書のため、通常の本を読むことが困難な子どもたちのために作られた本です。パソコンの画面に音声や文字と絵が一緒に表示されるデジタル図書です。文字の大きさや色、音声スピードが自由に選べどを読んでいるのかわかります。

障がいのあるお子さん（視覚、聴覚、知的、学習など）や保護者、学校や施設の先生方、その他関心のある方ぜひ、体験してみましょう！説明は数分、簡単な操作で体験できます。

開催日 8月 9日（土） 西那須野図書館
8月 10日（日） 塩原図書館
8月 17日（日） 黒磯図書館
各会場共に 10時～15時の間いつでも

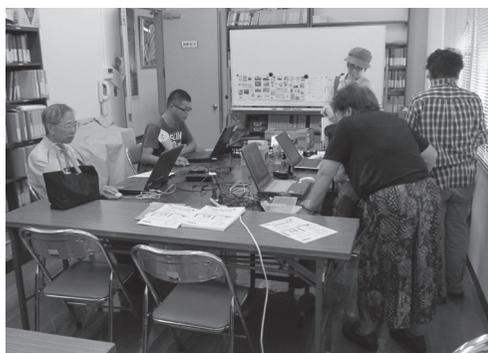
問合せ先 ・黒磯図書館（星）TEL.0287-63-9031
・アイ・サポート那須（松木）TEL.

アイ・サポート那須

8月9日（土）：西那須野図書館、図書館員を含め19人が体験。

8月10日（日）：塩原図書館、大雨の中、図書館員を含め12人が体験。

8月17日（日）：黒磯図書館、デスクトップPCを1台増やして5台で。図書館員を含め32人が体験。



以下、体験時の特記です。

- ・軽い知的障害と思われる男性、簡単な説明だけで一人でいろいろ体験、興味津々の様子で午後また来ますと言って出ていったがその後顔を出さず。
- ・高校3年の女生徒、「先生を目指しています。入口の張り紙を見て寄ってみました」と積極的に学習、質問もいろいろ。「これいいですねえ。いい勉強をしました」と1時間ほど体験して帰る。
- ・小学校低学年の生徒たち（障害児ではない）が、わいわい言いながら楽しんでいた。
- ・極度のロービジョンの小4男児が母親と来場。男児はパソコン操作しながらいろいろ体験、なぜなぞは最後まで楽しんでいた。母親も関心をもった様子で、文庫の借り方などメモしていた。
- ・ダウン症と思われる男性、母親と来場。しばらく体験していたが興味を示さなかった。
- ・発達障害と思われる小4女兒、母親と来場。なぜなぞを体験、楽しんでいる様子。母親「絵はスクロールさせないやり方ができるといい」
- ・中学校校長（男性）、長時間いろいろ試聴。国会関係を見ながら「良いですねえ。学校で使えますね。文字での理解がむずかしい子どもに、もっと図が欲しい」とかなり関心をもった様子。伊藤忠記念財団への連絡方法などを教えた。
- ・小学校の特別学級担当の先生（女性）、学校で使ってみたくと数タイトル持ち帰る。
- ・認知症の父に使えるようなものがないかと女性、「大人の本がほしい」

その他の取り組み

- ・訪問介護事業もしている社会福祉協議会であれば、障害者(児)に接触することが多いのでは、と本所、支所でデモを実施、職員にPRを依頼しました。
- ・子育てセンターで職員の方々にデモ、「使ってみたい」と関心をもった様子、数タイトルお貸ししました。
- ・小規模グループホームの職員から、「社協だよりの記事を見た。入所者がぼんやりしている時間が多いので使ってみたい」との連絡で、職員、入所者に出前講座。絵本に関心を示しもっと見たい、他のも見たい、無表情の人など入所者の反応はいろいろ。なぞなぞはみんなで見ながら楽しむことができた。職員さんが、使ってみたいとのことで、ノートパソコンとUSBスピーカー、黒磯図書館の文庫CD数タイトルお貸ししました。
- ・昨年に続き、黒磯図書館こどもまつりでPR。掲示と体験。6組の親子などが体験、説明に耳を傾けていたできました。

今後の取り組み

少しずつ市民へのPRが届き始めたかなと感じていますが、まだ効果事例を把握できていません。

体験会には予想より多くの方々に来場していただきましたが、連絡先などを聞けなかったのが反省点です。

次年度も体験会の実施、学校へ出向いてのレクチャーや公民館での体験会なども検討し、PRに努めていきたいと思います。

広く存在を知ってもらうことで、有効な活用事例も出てくるのではないかと考えています。また、体験後のフォローについても検討していきたいです。

.....

わいわい文庫製作者へのお願い

絵本の「絵」は、スクロールさせないでページごとに固定し、文字は画面下方などで数行スクロールさせるような表示方法が求められているようです(絵本なので)。